

いとでんわ

熊本県立
芦北支援学校



第182号
令和6年7月19日
発行

紙面内容

- 「学校長寄稿」
- 「芦北支援学校の進路学習」
- 「各学部の取組」

分教室

「令和六年度前期現場
実習・校内実習」

Only Oneの共育くを目指して

校長 井口 英里

令和六年度の芦北支援学校は、本校舎七人（訪問教育含む）、分教室七人の新入生を迎え、全校児童生徒数三十九人でスタートしました。

本校は「Only Oneの共育」を教育理念として、「児童生徒それぞれの力や特性を見極め、さらに伸ばすきめ細やかな指導を行う」「一人一人が将来に向けて生活の質を向上させ、自立した生活ができるよう、生きる力を持った児童生徒を育成する」「児童生徒同士、職員、家庭、地域が共に学び、共に育つよう連携を深める」ことを教育目標の柱として掲げています。

新型コロナウイルス感染症は感染症法上では五類に移行したものの、本校舎では児童生徒の実態を鑑みて感染症対策を講じながら、地域の学校等との交流を徐々に再開してきました。その中で感じたことは、本校舎の児童生徒たちは、「交流」「ふれあい」を通して、校内の授業だけでは得ることができない、大きなことを学んでいる（体験を通して確実に何かを感じ取り、自らの糧にしている）ということです。児童生徒ごとに学びの内容は異なるかもしれませんが、交流後には必ず何かを会得しているように思い

ます。このことは、佐敷分教室の生徒にも言えます。

一学期は、芦北高校との合同体育大会があり、同じ種目で競ったり、一緒にマスをゲームを完成させたりしました。閉会式では両校の校歌・生徒歌を共に歌う両校



の生徒たちの姿に、日頃の交流の成果を実感しました。また、農業科生徒との交流（田植え）、福祉科生徒との交流（ベッドメイキング）など、それぞれの専門性を生かした体験活動を通して、芦北高校生徒と佐敷分教室生徒の互いの絆を更に深めることができています。

そして、このような交流によって生み出された「成長」や「絆」は、間近で見ている本校の教職員にも大きな影響を与え、更にその「成長」を見たいと日々教材製作や教材研究に邁進しています。

本校の教職員四十四人は、本校の児童生徒の日々の成長に携われることを誇りとして、冒頭に述べました教育理念・目標の下、充実した教育活動を実践できるよう精進して参ります。目標の一つである「児童生徒同士、職員、家庭、地域が共に学び、共に育つよう連携を深める」ことができますよう、保護者の皆様、地域の皆様、関係機関の皆様、引き続き温かい御支援・御協力をどうぞよろしくお願ひします。

芦北支援学校の進路学習

本校舎「進路学習」

本校舎中学部は六月二十六日（水）、障害者福祉施設みつば学園に行きました。前半は就労支援センターにて、ケースの組み立てや、クラフトバンドの製作の様子を見学しました。後半は、地域のえんがわ「piccolo」にてクラフトバンド製作体験をしました。どちらにおいても丁寧に挨拶をしたり、器用に活動をしたりする様子が見られ、スタッフの方から賞賛の言葉をいただきました。施設見学の事前学習、事後学習ともにしおり（ワークシート）を使ってしっかりと学習し、最後のまとめとして高等部の先輩方に成果を発表するなど、とても有意義な学習となりました。（山中）



六月三日（月）から十四日（金）の十日間、二・三年生は現場実習、一年生は校内実習を行いました。

三年生は「つかもう」をテーマに、卒業後の自立した生活をイメージしながら取り組んだ十日間でした。今回の実習で分かった長所や強みは更に伸ばし、課題は少しでもプラスの方向に向くよう、今後に生かしてほしいと思います。

二年生は、自分に合った仕事や働き方を「みつげよう」というテーマでの実習でした。「働くこと」の楽しさ、大変さをより具体的に経験できたと思います。

一年生は、校内実習（受注作業として鉄板のシール剥がし、磨き）や農作業に取り組みました。十日間の働く生活を通して、生活習慣、時間管理の意識、職場のマナー等を学ぶことができました。（谷崎）



各学部の取組

小学部

小学部では、六月十一日(火)に佐敷小学校の三年生と交流を行いました。はじめは、お互い緊張していましたが自己紹介をしていく中で、自然と笑顔が見られました。レクリエーションでは、あしえんスポーツデーで取り組んだ回転玉入れを行いました。佐敷小学校の友達と補助具を一緒に引っ張ったり、ボールを渡したりして触れ合うことができ、とても盛り上がりました。最後は、みんなで輪になり、交流の歌「ともだちいっぱい」を歌い、思い出に残る交流になりました。(田端)



中学部

六月十九日(水)と二十一日(金)に佐敷中学校一年生と交流学習を行いました。チーム対抗でのレクリエーションや全員で手をつないでの歌の斉唱などを通して、お互いの絆を深めることができました。本校生徒から出されるクイズの問題に佐中生が次々に手を挙げて答えてくれたり、指文字を交えながら自分の名前や好きなものなどを紹介してくれたり、交流に対する佐中生の皆さんの積極的な姿勢が強く印象に残りました。今回の交流で深まった絆をこれからも大切にしていきたいと思



高等部

六月十四日(金)に水俣高等学校インターアクト部との交流学習を行いました。対面式では、お互いに自己紹介カードや手話での自己紹介に取り組みました。レクリエーションでは、少しずつコミュニケーションも深まり、手を取り合いながら玉入れゲームを楽しみました。最後には、みんなで手をつなぎ、輪になって交流歌「ともだちいっぱい」を歌うことができました。最初は、互いに緊張が見られましたが、交流を通して少しずつ緊張も解け、自然に交流する様子が見られ、有意義な交流学習となりました。(園山)



訪問教育部

四月に転入生一人の仲間を迎えて、小中高合わせて七人で活動に取り組んでいます。四月の学習では、「訪問教育へようこそ」の気持ちを伝えるべく歓迎ボードをみんなで作成しました。新しい仲間を喜ぶ低学年、制作で力を発揮した上級生、笑顔でボードを受け取った児童。今年度も仲間とのかかわりや役割を大切にしたい学習をしていきたいと思



佐敷分教室

五月十一日(土)、青空のもと体育大会を実施しました。今年度から、「芦北高校・芦北支援学校高等部佐敷分教室体育大会」と体育大会の名称が変更となり、芦北高校と分教室と、両校主催の体育大会となりました。大会当日だけでなく、当日に向けた予行練習、会場設営も含めて芦北高校と一緒に取り組んできました。さらに、開閉会式では本校の校旗掲揚・降納、高等部生徒歌斉唱が、新しくプログラムに加わり、両校が協力して一緒に作り上げていく体育大会となりました。大会当日に向けて、四月中旬から各競技の練習に励み、本番は全員が精一杯の持てる力を発揮しました。(境野)



進路指導部より

分教室の現場実習先で支援員の方と色々とお話すると、生徒の良さに気付かされることが多々あります。先日、ある事業所での前期現場実習の評価会で、事業所のスタッフの方から「〇〇さんは、いつも『笑顔』であいさつや返事をしてくれれます。話をするときも笑顔で返してくれれます。それだけではなまるです。」とおっしゃっていただきました。周りが嬉しくなる『笑顔』ができるなんて素敵ですよ。一緒に何かに取り組むときに、お互いに気持ちが良いようになるような関わり方ができることの大切さを改めて感じました。(大塚)



あしえんインフォメーション

- 〈二学期の主な行事〉
- 本校舎 始業式 九月二日
 - 個別面談週間 九月三十日～十月四日
 - オープンスクール 十月十五日
 - にこにこふれあい発表会 十月二十六日
 - 終業式 十二月二十四日
 - 佐敷分教室 始業式 九月二日
 - 後期現場実習 九月三十日～十月十一日
 - オープンスクール 十月十五日
 - 進路面談・個別面談週間 十月二十一日～十一月一日
 - 芦高祭 十一月八日・九日
 - 終業式 十二月二十四日

緊急時や災害時等に活用する一斉メール配信システム『あしえん安全メール』の運用にあたり、下記の2社からの協賛をいただいています。

- 〇ゆめタウン八代 様
- 〇熊本日日新聞社 湯浦販売センター 様

「いとでんわ」は芦北支援学校の情報発信紙です。地域と共に成長する学校でありたいと考えています。関係者の皆様、地域の皆様の御意見をお待ちしています。

《御意見・問い合わせ》

TEL 0966-82-4627

FAX 0966-82-4606

MAIL ashikita-s@pref.kumamoto.lg.jp